

あつし塾長の

子のやる気の親の気づき

〇〇61

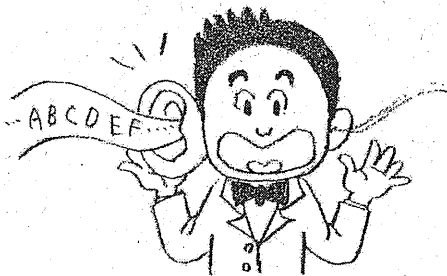


先週、中一の子を持つ親御さんからの電話相談が続きました。わが子の英語の答案を目にして「何で間違ったの!」とついつい小言を言ってしまったたり、「こんなにできないなんて!」とつい本人に言ってしまったたりという内容でした。

柔らかい心

1学期最初の英語は、アルファベットが出題の中心。90点は取れたとしても、ABCを順番に書かせるだけではないので、勉強の仕方を覚え、答案練習をこなして臨まない、なかなか制限時間内に百点満点を取ることはできません。しかし、小学生でもABCを順に言えない子がほとんどいない時代だからでしょうか、ご相談の親御さんは答案と得

疑問や課題を先送りも



by yoriko

世代の差、言葉で縮めよう

点を見て、かなりショックを受けたようです。実は、中学校に入学し、真面目に英語の授業を聞いていたのに、最初のテストで90点以上が取れなかった場合が問題です。誰にも聞けない疑問を抱き続けていることがあるからです。

例えば、小学校でローマ字を習い、中学校でアルファベットを習います。太文字で「A・B・C...」、気が付いたら「a・b・c...」の小文字が。「a book」の冠詞の「a」は「ア」と発音し「エイ」と読んではいけない。しかも、誰かに聞けないで、かなりショックを受けたようです。

文化を相互に理解するためのコミュニケーションには、柔らかい心が大切なのです。

志学塾では、学習指導者として「分かりやすい言葉に訳してあげる」という講師研修を徹底して行っています。例えば、英語の「否定文」は「〜じゃない」、「疑問文」は「〜ですか」と言い換えます。このように耳慣れない難しい言葉をすでに知っている簡単な言葉に言い換えてあげるだけで、子どもたちは「なんだ、疑問文? だなんて先生、質問文? このとでしょ!」とホッとしたり表情が変わります。

その後で、子どもたちには、文法としての「疑問文」という正しい「言葉」が溶け込んでいるとします。

先に生まれた親の世代が、後に生まれた子の世代に近づくことも必要です。私はこの世代間の距離を縮める鍵は「言葉」にあると思います。

（畑山篤 志学塾塾長）

子どもが入団活動に慣れた横のつながり。「母子分室」(佐伯妙右と、3歳児たちには別のえてもらって人になって泣

親も知らない。プロフ 子どもとケータイ



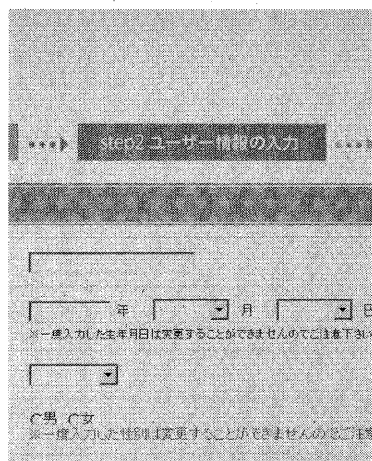
⑤

教育

プロフに盛り込まれる情報は、顔写真や自己紹介だけでなく、最大手「前格

する子どももいて、中3女子が彼氏と裸でくっついてる画像を公開してケース

載



プロフ最大手「前格プロフ」の登録画面。順に入力してけば簡単に登録が完了する。手話して。03